



大人が絵本を

第53回 絵本の日アワード2018



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

赤ちゃんの幸せは誰が決めるの？

「A senior Japanese official says raising toddlers is not a dad's job(日本高官が幼児を育てるのは父親の仕事ではないと発言)」。昨年5月、ワシントン・ポスト紙が報じた記事の見出しです¹⁾。

自民党幹事長代行が講演で、「赤ちゃんはママがいいに決まっている。ゼロ歳から『パパがいい』と言うのは変わっている」と発言し、SNSだけでなく海外メディアでまで報道され、大きな波紋を呼びました。「育児負担を減らすための社会制度で底上げをする」という趣旨でしたが、「待機している赤ちゃんを救済していくのは大事なこと」と言いつつ、「0歳の赤ちゃんは生後3~4か月で赤の他人様に預けられることが本当に幸せなのでしょうか」との疑問を呈しました²⁾。「男女共同参画」や「男も育児」とした建前とは裏腹な、価値観を押しつける物言いを政治家がとったのです。このような発言は、この事案に納まらず、複数の議員より発せられ、物議を醸し出しました。

国民の生活を守るための政策に勤しむ立場の人物に、育児の価値観を公言されて、小さな子どもをもつ保護者はこの国で安心して子育てができるでしょうか。未来ある若者たちがライフステージを描けるでしょうか。

多様な価値観を持った絵本を読むと…

「ワークライフバランス」や「ダイバーシティ」など多様性を重視する働き方改革が提言されているわが国で、政治家にこそ、幅広く寛容な理解に努めてもらいたいです。本連載第44回で、価値観の違いを認め、多様性を受容する心を育む絵本を紹介しまし

たが、政治家の皆さんにぜひ、絵本をおすすめしたいものです。

家族のカタチは十人十色と紹介した『たまごちゃん、たびにでる』のたまごちゃんは、ママが2人子ども1人の仲良し家族や、ネコ夫婦と子犬の家族、ママかばと子ネコ2人の家族と出会います。多様な形や考え方があって価値観が違うからこそ、社会で生きる素晴らしさをじんわりと伝えているのです。

第36回の「絵本に学ぶ父親像」では、母親が外で働き、父親が乳児1人を含む3人の子育てと家事を担う家族のお話『ママがおうちにかえてくる』を紹介しました。「『男も育児』とか言っても子どもにとっては迷惑な話かもしれない²⁾」と、個人的解釈を公的な場で言い切る政治家にぜひとも開いてほしい絵本です。

パパとママの片手ずつに女の子が嬉しそうにぶら下がっている、笑顔の家族が表紙絵の『たからものはなあに?』は、養子縁組がテーマです。「あかちゃんのいえ」からやって来たことをサラリと語る家族から伝わってくるのは、あたたかな愛と幸せの様相です。

昨今の新しい絵本には多様性が盛り込まれるようになりました。『パパのカノジョ』というタイトルにみる通り、娘目線で語られるパパの恋人との交流物語は、1999年にアメリカで発行され、日本では2002年に翻訳出版された絵本です。このような家族が実在しているということですし、またシングルパパ・シングルママのエールにもなります。

赤ちゃんが誕生すると、神様が一人ひとりに「個性」という名の贈り物をする『かみさまからのおくりもの』は、作者である樋口通子氏の娘さんが幼稚園に入った頃、わが子と他の子を比べた自身への戒めに創った手作りの絵本でした³⁾。一人の母親の手

手にするときは！

「大人こそ絵本を」Part-2

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

作り絵本が、教会の牧師の目に入り、「こぐまちゃんシリーズ」でお馴染みのこぐま社より出版されることになったのです。

このような経緯をもつ絵本から、ひと組の家族に深い絆の物語が生まれていますのでご紹介しましょう。



エピソード「かみさまからのおくりもの」

第2回「絵本の日アワード in FUKUOKA 2018

エピソード大賞さっちゃん賞(館長賞)

受賞者：福岡県福岡市 山田 香恵子 様

作品：『かみさまからのおくりもの』

ひぐちみちこ作

(こぐま社、1984年)



その絵本と出会ったのは妊娠8か月、おめでたの喜びもつかの間、不安が始まった頃でした。8か月検診で医師から胎児の病気を告げられたのです。治るの？ 無事に産まれてくるの？ 疑問が頭の中をぐるぐる回っていたことを今でも覚えています。不安を抱えきれず電話した相手は、食道閉鎖で生まれてきた子を持つ友人でした。友人は時折涙まじりになる私の話を黙って聞き、そして自分の体験を話してくれました。

数日後、友人から一冊の絵本が届きました。ひぐちみちこさん作の『かみさまからのおくりもの』。メッセージには「私の大好きな本を送ります」と書かれてありました。5人の赤ちゃんそれぞれに贈られる神様からのプレゼントのお話。毎日のようにその絵本をながめながら、「芽生がもらうプレゼントは何だろうね」とお腹に語りかけていました。その頃には芽が生きのびてくれますようにと芽生(いぶ



『かみさまからのおくりもの』
ひぐちみちこ作
(こぐま社)



き)と呼びかけていましたから。

9か月に入った頃、産婦人科の医師から大きな病院に移った方がいいだろうと言われ、出産まで入院することになりました。入院前夜、「しばらく離れるから読んであげて」と『かみさまからのおくりもの』を主人に渡しました。読み聞かせなどしたことがない主人が、照れながらも芽生に読んであげました。そしてそれが私達夫婦が芽生にしてあげた最後のお話になりました。翌日、病院で心音が止まっていると聞かされた時、どんなに嘆いたことでしょうか。芽生に読んであげることができた唯一の絵本、友人からもらった一冊は棺の中に入れ、もう一冊は私が持っています。羊水過多で苦しそうにしている私を見かねて自ら天に召されたとすれば、芽生がもらったプレゼントは「思いやり」だったのだと思います。

あの日から22年、『かみさまからのおくりもの』は、今も書棚に置いています。私と娘(芽生)をつなぐ大切なものとして。



次章を紡ぐ「かみさまからのおくりもの」

絵本は、「誰かの手に渡されたそのとき、その物語は作者ではなく、手にした人の物語になるのです」⁴⁾と『ラヴ・ユー・フォーエバー』の作者が語ったように、『かみさまからのおくりもの』から生まれた絵本の日アワード2018館長賞受賞作品は、山田様ご家族の物語として生まれ変わったのです。絵本は、短



い言葉と絵で表現されていますので、目で見えて感じ、じっくり味わい、思いめぐらしてこそ、見えない力である「絵本力」が湧き出てくるのです。山田様の『かみさまからのおくりもの』には、大きな力を感じるのです。

初版発行から35年が経ち、ロングセラーとして幼児から大人に至るまで幅広く愛読されている絵本より生まれた物語に、ひと際崇高な光が当たり、人々の感動を呼ぶことになりました。山田様ご家族は、これからも『かみさまからのおくりもの』を通して、第3章、第4章と、延々と物語を紡ぎ続けることでしよう。

大人のための絵本は、是なり。

絵本の日アワード in FUKUOKA2018 エピソード大賞に、全国各地から多数の応募をいただいた中、「元気が湧く賞」には、北海道在住の佐々木晋様の作品が輝きました。

インドネシア在住時、暴動が起こって、仕事どころではなくなり、不安を隠せないでいたご自身を察知したお子様たちが、絵本で元気づけてくれたエピソードです。それは、親子で繰り返し読んだという、マイク・セイラー作『ぼちぼちいこか』(今江祥智訳)のカバのセリフ「ええこと おもいつくまでこちらでちょっとひとやすみ。ぼちぼちいこかということや」⁵⁾。

エピソードのラストは、「親のピンチを救ってくれた幼き人たち。子どもたちは絵本から生きる勇気を学びとっていた。そして、私もやっとわかった。絵本は子どもたちに読んでやるためだけにあるので

はない。そこには大人にとっても大切なことが書かれているのだ」と結ばれています。

「絵本の日」誕生物語に結びつくエピソードに、私たち医療法人元気が湧く職員一同、元気が湧きました。

遊びどころ満載！ 翻訳の愉しみ

『What Can a Hippopotamus be?』の原題をもつアメリカの絵本を、『ぼちぼちいこか』と訳した今江祥智氏の秀逸さがこの絵本の魅力を高めています。直訳すると、「かばくんはなにになれるかな？」でしょうけれど、本文を訳してみても直訳タイトルとしなかったのです。大阪出身の今江氏は「私の好きな関西弁で遊んでみました」と、表紙カバー見返しでコメントしています⁵⁾。確かに、共通語の訳文では、このまったりとした可笑しきは表現できなかったでしょう。

実は、この『ぼちぼちいこか』の日本語翻訳版も、すんなりとは出版されなかった作品です。かばくんが発する英語の「NO」を大阪弁に重訳して、「あかん」「あきまへん」「どないしょ」と変革活用させてみたけれど、担当編集者に「大阪弁は日本語ではない」と断られたため、大阪弁が市民権を獲るまで数年待って、「ようやく出た」絵本なのです⁶⁾。

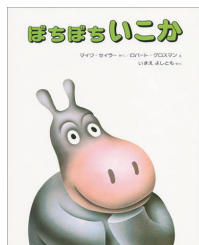
ところがどっこい、今江氏が選び抜いた関西弁の言葉が、ロバート・グロスマン氏の描くかばくんの絵に、何ともびったりで、だから「慌ただしい世に、じっくりと自分を見つめぼちぼちと自分について考えてみることも大切」⁵⁾ということが身に染み渡るようにジワーッと伝わってくるのです。

大人の価値観を取り除いて、絵本を読もう

絵本の日アワード2018笑顔賞は、東京出身で、一年半前に福岡市民とられた沼上ゆかり様の『ノンタン！いたいのとんでけ〜☆』です。当時1歳のお子様か風邪に罹り、受診した病院でも具合が悪く大泣きしていたので暗い気持ちだったけれど、薬局でHちゃんが大好きな「ノンタン」を見つけると、少し



『ぼちぼちいこか』
マイク・セイラー作
ロバート・グロスマン絵
今江祥智 訳
(偕成社)



明るい表情になり、『いたいのとんでけ〜☆』を読んだら笑顔もちょっと出たというエピソードは、沼上様母子だけではなく、医療従事者の温かい心も添えられて、ほっこり笑顔になれる作品です。

『ノンタンいたいのとんでけ〜☆』
キヨノ サチコ作
(偕成社)



「ノンタン」は、本連載をスタートしたばかりの第2回でお話した通り、「意地悪をする、悪戯もする決して優等生ではないので、教育的見地からもずっと批判されてきた」⁷⁾云わば“いわく付きの絵本”です。それに「“良書”啓蒙派による『絵本として低俗』という執拗かつ頑迷な批判」を受け続けたのですが、シリーズの総部数が2700万部を超えるほど読者からの強い支持が『ノンタン』の絵本としての存在を否定しがたいものとして定着させてくれた」と、ノンタン誕生30周年の翌2006年に偕成社社長の今村正樹氏は話しています⁷⁾。

一部の大人の批判を受け続けたノンタンでしたが、大学病院小児科看護師の評価を得ると、作者の手によって、病気の子どもたちが過酷な検査を耐え抜く伴走者となったのです。子どもたちに検査のポイントを説明し、恐怖心を取り去るためのプレパレーションツールとなり、今、全国の小児病院で大活躍しています⁸⁾。

今村社長は、「意地悪や悪戯もするけれど、どこか憎めない優しさを持つノンタンに子どもたちは自分と等身大の『もう一人の自分』を見てきたのではないか」と分析し、ノンタンが30周年を迎えたときには、「子どもであった世代が親になるサイクルに見合っていて、ノンタンで育った子どもが自らの経験をわが子に伝えたくて『ノンタン』を手渡してくれているとしたらこれ以上の喜びはない」と表出して

います⁷⁾。

沼上様のお子様Hちゃんは、生後1年間の歳月でお母様より受け継いだ絵本によって心を育み、ママの体調が悪いときに「いたいのとんでけ〜☆」と手を差し伸べる優しさをノンタンに教わりました。それは、母としての沼上様の優しさであり、愛なのです。



だから、「大人こそ絵本」!

大人の単純で安直な評価とは裏腹な力が、絵本に備わっているのは明白です。大人目線の身勝手な価値観でラベリングしてはいけないということです。2015年に誕生40周年を迎えたノンタンは、これからも様々な分野で子どもたちの成長に添い続けることでしょう。

絵本の日アワード2018授賞作品より、絵本の背景や作者の人生等、その制作過程を知ることによって、絵本の理解に深みが増すことをお分かりいただけたと思います。



文献

- 1) Amanda Erickson: A senior Japanese official says raising toddlers is not a dad's job!, The Washington Post HP: <https://www.washingtonpost.com> May29, 2018.
- 2) 朝日新聞社: 萩生田氏「赤ちゃんはママがいいに決まっている」, 朝日新聞デジタル, HP: <https://www.asahi.com> 2018.5.27
- 3) ひぐちみちこ: かみさまからのおくりもの, こぐま社, 東京, 1983.
- 4) Carla Herreria: The Heartbreaking Story Behind IconicChildren's Book 'Love You Forever', The Huffington Post HP: <https://www.huffpost.com> Updated February22, 2017.
- 5) マイク・セイラー作, ロバート・グロスマン絵, 今江祥智 訳: はちぼちいこか, 偕成社, 東京, 1980.
- 6) 今江祥智: はじまりはじまり〜絵本劇場へようこそ, 淡交社, 京都, 1998, p.114.
- 7) 今村正樹: 子ども自身としての「ノンタン」, 医療安全 3 (1), p.15-17, 2006.
- 8) 千葉美香: 「絵本の力」を再認識 - 『ノンタンがんばるもん』, 小児歯科臨床 19(5), p.71-72, 2014.